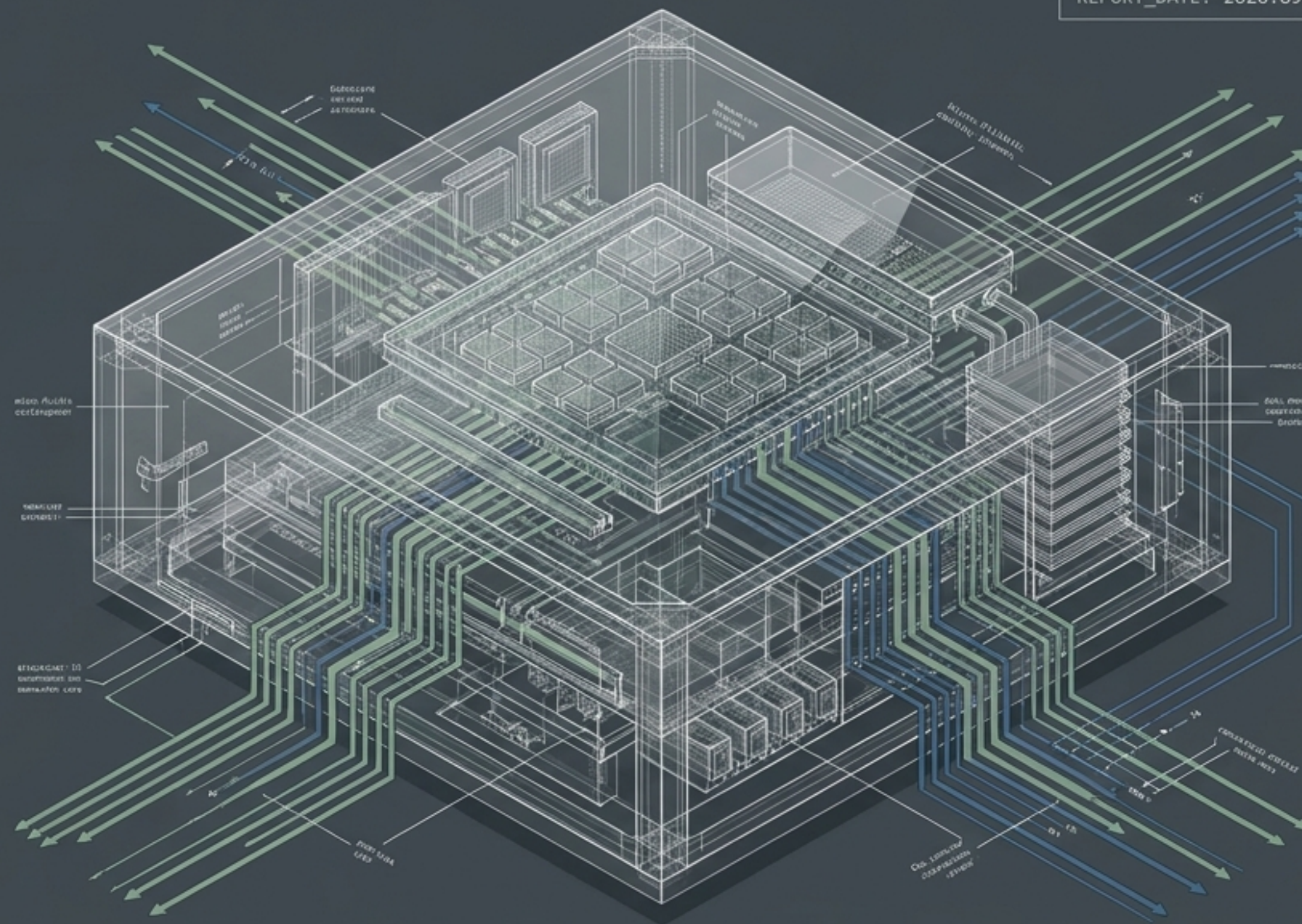




Perplexity “Portable Computer”の正体と衝撃

WindowsローカルAIエージェントの技術構成・ハードウェア要件・エンタープライズへの影響

Executive Summary



完全ローカル実行の実現

NVIDIAとの協業によるローカルファースト設計。モデルからオーケストレーターまでWindows端末内で完結。



24GB VRAMという巨大な壁

オンデバイス推論の絶対条件。最新世代でも基準を満たさなければ除外されるハードウェアの逆転現象が発生。



エンタープライズの期待と課題

ゼロトークンコストと機密データ処理の利点に対し、未解決の脆弱性とクラウドへのエスカレーション経路が懸念。

完全クラウド



Perplexity Computer

リリース: 2026年2月

ベースとなるWebエージェント



Personal Computer

リリース: 2026年4月/7月
デスクトップ拡張版。ハイブリッド環境でCometブラウザを制御。

完全ローカル



Portable Computer

リリース: 2026年9月14日

処理を自社ハードウェアへ移管。24GB VRAM必須。

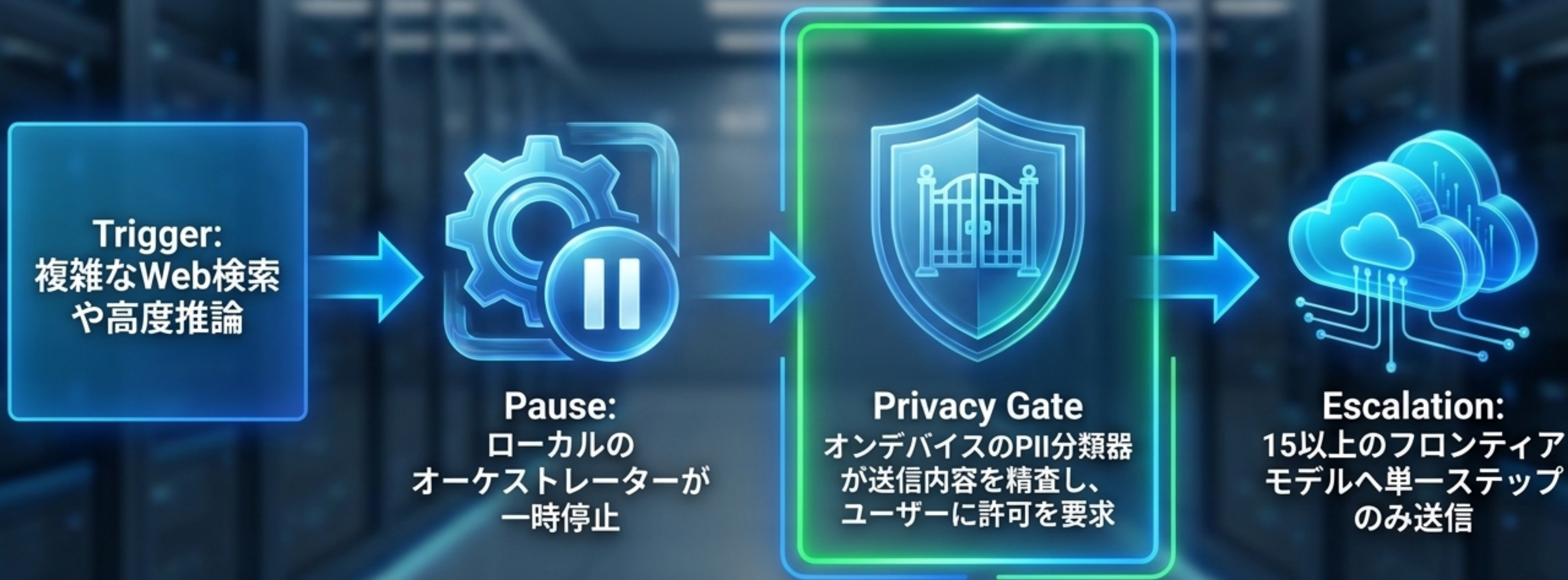
本調査の対象

Windows PC (RTX GPU / 24GB+ VRAM)

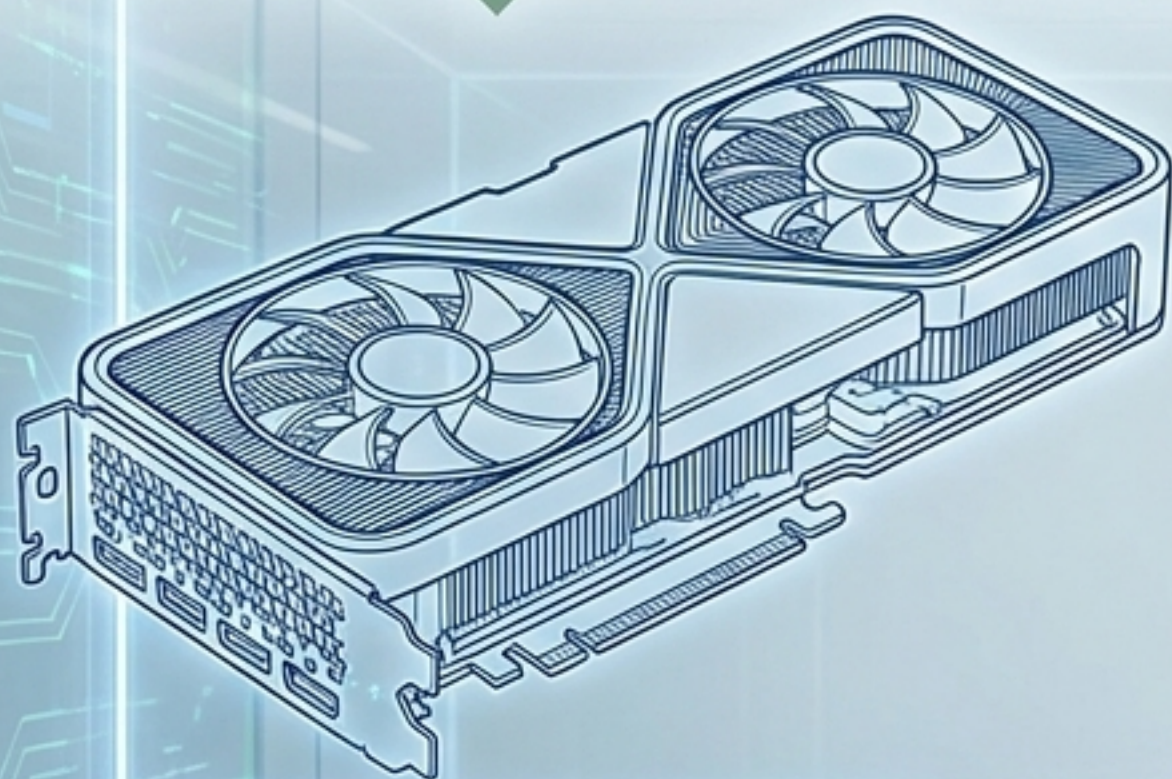
Windows PC (RTX GPU / 24GB+ VRAM)



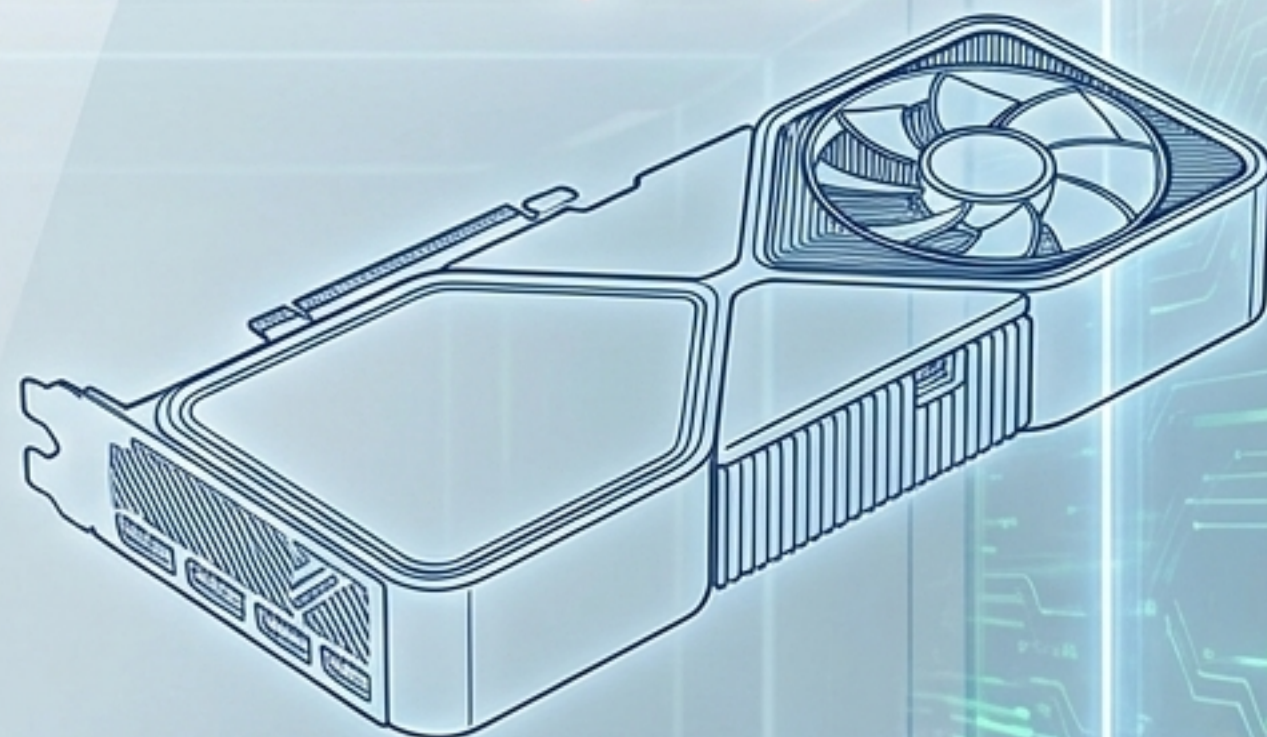
「Portable」は持ち運びではなく、これらすべてのコンポーネントを自らのハードウェア上で実行する「処理の移管」を意味する。



「完全ローカル」を謳いながらも、高度なタスクでは境界を越える「ハイブリッド構成」が実態である。



旧世代: RTX 3090
VRAM: 24GB
ステータス: 稼働可能



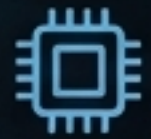
最新世代: RTX 5080
VRAM: 16GB
ステータス: 稼働不可

世代の壁ではなく、VRAMの壁 — 上位カード保有者の多くが要件を満たさない逆転現象が発生。

Engine Specs



提供中モデル:
PPLX 27B



追加予定モデル:
Nemotron 3.5 Lightning



コンテキスト制限:
公称26万トークン



実運用限界:
約10万トークンで性能劣化が開始

Benchmarks (Local Knowledge Work Bench)

PPLX 27B

85.4%

Qwen

82.6%

すべて自社評価。Windowsネイティブではなく
NVIDIA DGX 上で測定。第三者検証なし。



Zero Token Cost

デスクトップアプリの膨大なデータを、APIコストゼロで直接読み込み、定期タスクを自動化可能。

Glass-Box Architecture

Microsoft 戦略

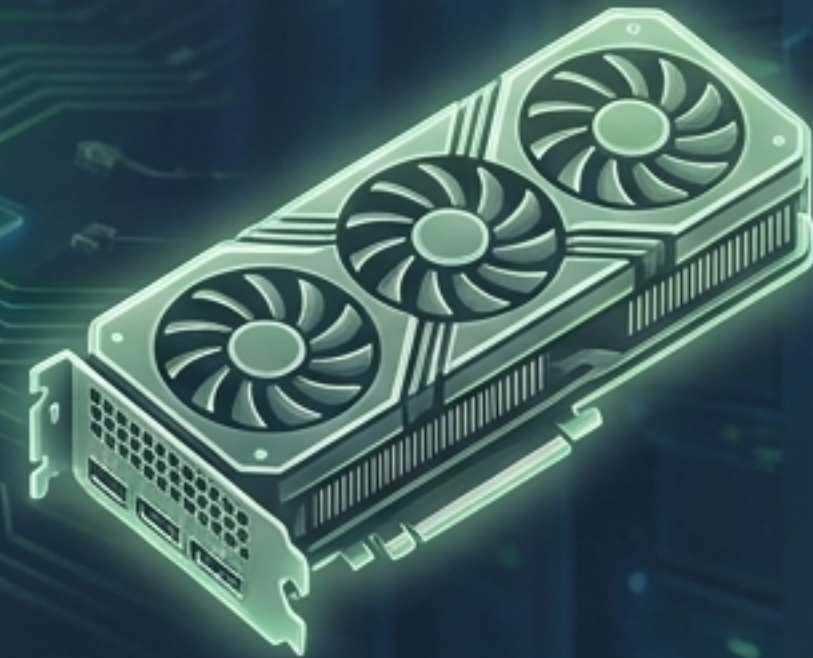
プラットフォーム: Copilot+ PC



NPU (Neural Processing Unit) 依存

Perplexity 戦略

プラットフォーム:
Portable Computer on Windows



NVIDIA RTX GPU (24GB VRAM) 依存

WindowsというMicrosoftの土俵において、ハードウェア戦略（NPU）とは独立し、NVIDIAエコシステムに大きく賭ける独自の競争レイヤーを構築している。

Agentic (自律行動型)

Google
(Project Mariner)



OpenAI
(Operator/Codex)



Anthropic
(Computer Use)



Perplexity
Portable Computer

Cloud 実行

Local 実行

Chat (応答型)

Perplexityの独自の提供価値

1. 完全ローカル実行
2. ゼロトークンコスト
3. Privacy Gateによる許可制クラウドエスケーション

企業導入の障壁：未解決の脅威とリスク

Threat Intel



Security: CometJacking懸念

Cometブラウザにおける間接プロンプトインジェクションの脆弱性。悪意あるURLを経由して、連携アプリ内の機密データが窃取される懸念が存在。

Threat Intel



Legal: 進行中の著作権訴訟

Dow JonesやNYT等による大規模提訴が未解決。生成物の権利帰属や、機密文書へのエージェントアクセス許可において、法務的な不確実性が残る。

メリット (Pros)

- 機密データのローカル処理
- 定期タスクの自動化



デメリット (Cons & Risks)

- 24GB VRAMの高額なハードウェアコスト
- コネクター経由のデータ漏洩リスク

「ローカル＝絶対安全」という即断は危険。
端末境界を越えるデータ流出経路を考慮したガバナンスが必須。

Governance Action Plan [Short-Term: Evaluation]

Step 1

1. 製品の分離

「Portable」「Personal」「Comet」を社内規程で明確に区別する。

2. ハードウェア制限

既存のRTX 3090/4090を保有する部署（AI開発・3Dデザイン等）にパイロットを限定。限定。

3. スコープ制限

限定ユーザー、限定フォルダ、限定コネクタのみでのテスト運用から開始。

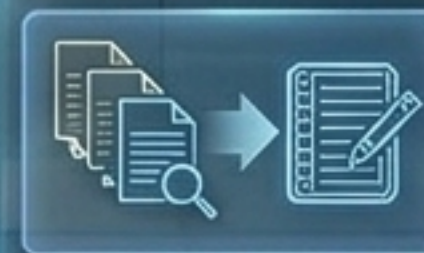
Governance Action Plan [Mid-Term: Control Design]

Policy Dial



Privacy Gate (クラウドエ
スカレーション) の厳格な
許可ポリシー設計。

Audit Switch



端末外へ出るデータの監査ロ
グ監視・レビュー体制の構築。

Data Scope Slider



機密度分類に応じた、
エージェントのアクセス可能
フォルダの制限ルール策定。

The Threshold for Full Adoption

Verification: 第三者によるWindows
ネイティブ環境でのベンチマーク検証

Security: CometJacking脆弱性の根
本解決とアクセス制御の確立

Hardware: 下位VRAM要件の緩和、
またはDGX Station対応の完了

Legal: 進行中の著作権侵害訴訟リス
クの法的なクリア

これら4つのシグナルが「グリーン」に変わるまで、エンタープライズは本格導入を保留し、厳格なガバナンス下での慎重なテスト運用に留めるべきである。